

酸化型C₆₀Q₁₀-γCD包接体

抗酸化活性で美肌効果

シクロケム

シクロペキストリンを用いてさまざまな研究を行っているシクロケム(東京都中央区、〒103-5614-7147)は、γ-シクロペキストリン(γCD)によって包接したC₆₀Q₁₀の作用機序を明らかにし、ビタミンCとの複合的な美肌作用を提案している。

C₆₀Q₁₀は、酸化型と還元型が知られており、同社では酸化型のC₆₀Q₁₀を包接することによって生体吸収を高めた製品を開発してきた。酸化型C₆₀Q₁₀は、体内でエネルギー生産に関与し、その過程で自らは還

元型に変化する。還元型C₆₀Q₁₀は、その抗酸化活性によって、血管障害、動脈硬化、糖尿病の合併症など多くの疾患に対して効果が期待できる。

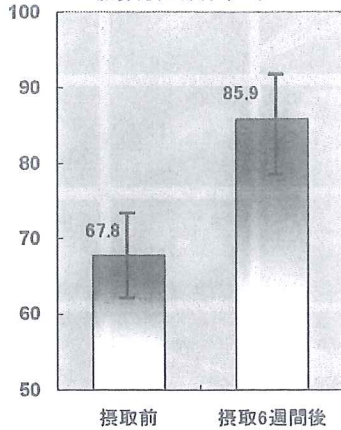
また、抗酸化活性を促した後、自らは酸化型に変わる。このように、酸化型C₆₀Q₁₀と還元型C₆₀Q₁₀は、それぞれ体内で別の作用を発揮しながら、酸化型から還元型になり、還元型から酸化型になる特徴がある。

還元型C₆₀Q₁₀は製剤が難しくなっており、酸化型C₆₀Q₁₀は製剤が難しくなっている。

既に同社はC₆₀Q₁₀のγCD包接化による吸収性向上機構を解明している。小腸内の胆汁酸によってγCD包接体から解離したC₆₀Q₁₀は分子レベルのミセル形成によって可溶化し、その結果、吸収性は向上するといわれている。

今回その可溶化された酸化型C₆₀Q₁₀が腸管内でビタミンCによって還元型となると、その吸収性はさらに高まることも明らかとなった。また、C₆₀Q₁₀包接体とビタミンCを併用して摂取した際の肌弾力性(戻り率)に関する試験では、摂取前と比べて有意に肌弾力性が上がるこ

肌弾力性(戻り率%)



また、酸化型C₆₀Q₁₀は、その抗酸化活性によって、血管障害、動脈硬化、糖尿病の合併症など多くの疾患に対して効果が期待できる。

既に同社はC₆₀Q₁₀のγCD包接化による吸収性向上機構を解明している。小腸内の胆汁酸によってγCD包接体から解離したC₆₀Q₁₀は分子レベルのミセル形成によって可溶化し、その結果、吸収性は向上するといわれている。

今回その可溶化された酸化型C₆₀Q₁₀が腸管内でビタミンCによって還元型となると、その吸収性はさらに高まることも明らかとなった。また、C₆₀Q₁₀包接体とビタミンCを併用して摂取した際の肌弾力性(戻り率)に関する試験では、摂取前と比べて有意に肌弾力性が上がるこ